

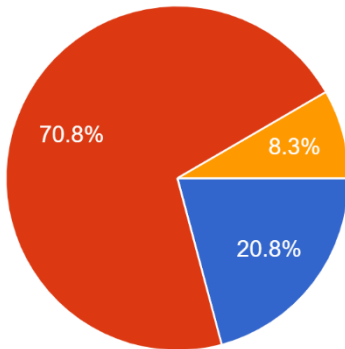
令和3年度舞鶴小学校 学校評価(自己評価)集計結果

1 1月に学校評価(教職員自己評価)を行いました。各項目の主計結果は次の通りです。

- 1: 十分できている
- 2: おおむねできている
- 3: やや課題がある
- 4: 課題がある

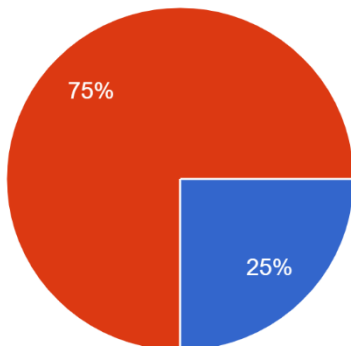
【学校教育目標】

1(教育目標)学校教育目標の具現化に向けて、共通理解をもって教育実践に取り組んでいる。

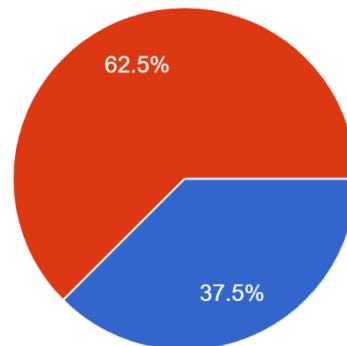


【学習指導】

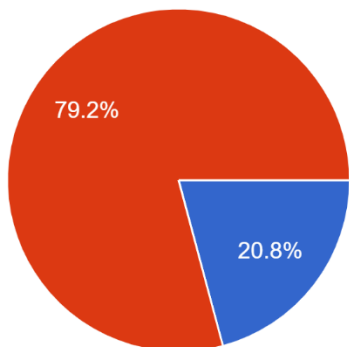
2(学力向上)確かな学力の育成・言語活動の充実について職員間で共通認識をもち、取り組んでいる。



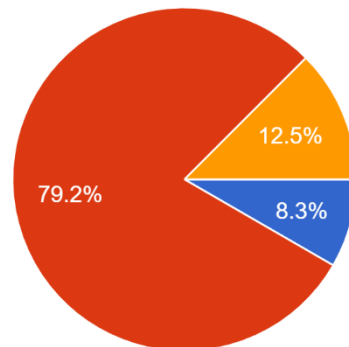
3(学力向上)関心を引き起こし、興味を意欲に変える教材や学習方法を工夫し、学ぶ楽しさを体験するようにしている。



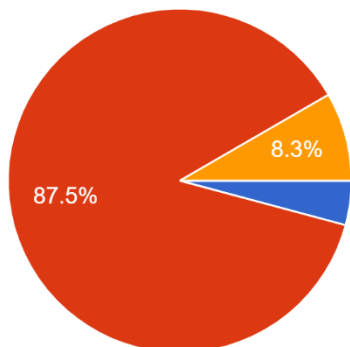
4(学力向上)「主体的・対話的で深い学び(特に学び合いの学習)」の指導に努めている。



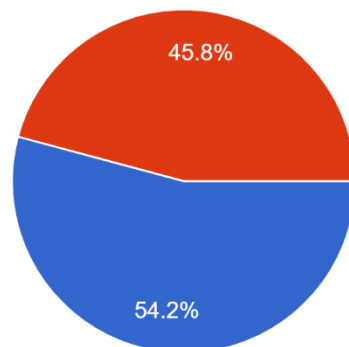
5(学力向上)総合的な学習の時間と各教科等,教科横断的な視点で関連させた学習を取り入れている。



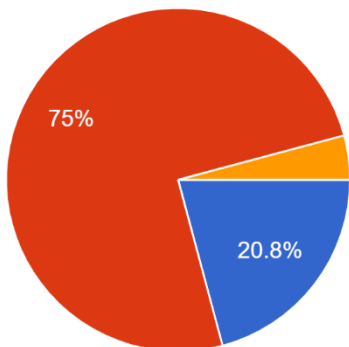
6(学力向上)体験的・問題解決的な学習,地域の人的・物的資源を活用することを通して自己学習力の育成を図っている。



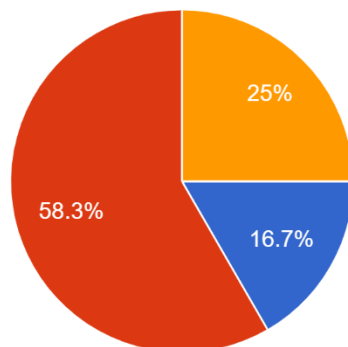
7(学力向上)有効な読書活動の推進が確保されている。



8(学力向上)道徳性を養う指導の充実と思いやる心の醸成,生き方指導の充実を図っている。

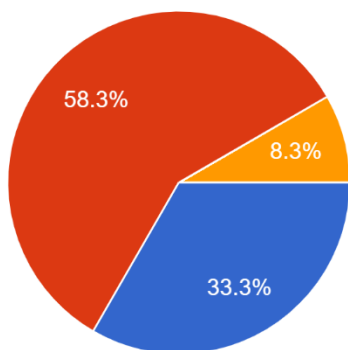


9(情報教育)積極的に ICT 機器を活用したり,クラウドブックを使用した授業を展開したりするなど,情報教育の推進に努めている。

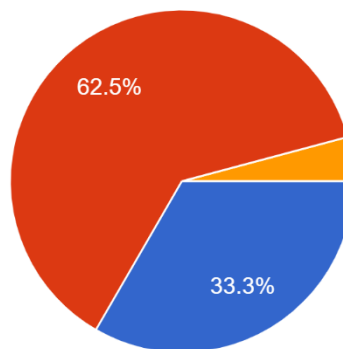


【生活指導】

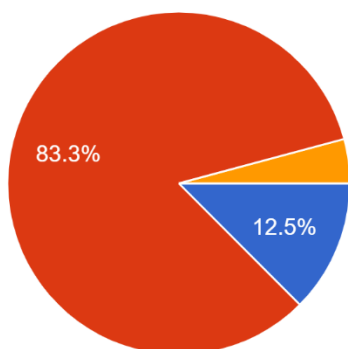
10(生活指導)いじめ, 不登校をはじめ児童の問題に対し, 自他の個性を尊重し合う心や, 好ましい人間関係の育成ができるようにしている。



11(生活指導)あいさつ運動を推進している。

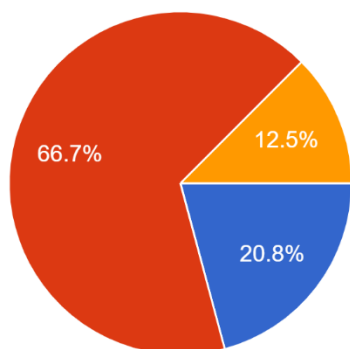


12(生活指導)「無言清掃」を中心に, 適切でよりよい習慣化を図る清掃指導を行っている。



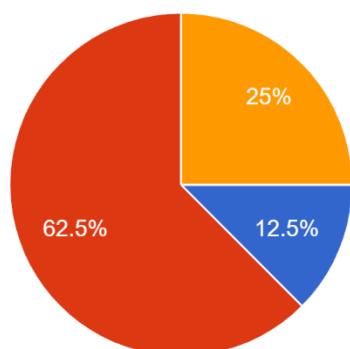
【特別支援教育】

13(特別支援教育)特別支援コーディネーターを中心として特別支援校内委員会を開催し, 情報交換と指導の一体化を図っている。

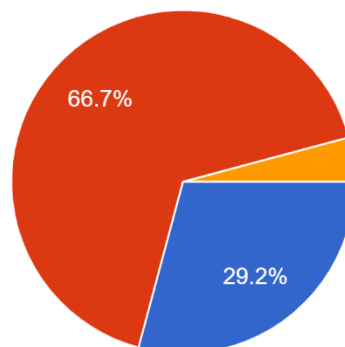


【保健・衛生・健康】

14(保健体育)保健指導や保健学習を継続して行い、病気やけがの防止に努めている。

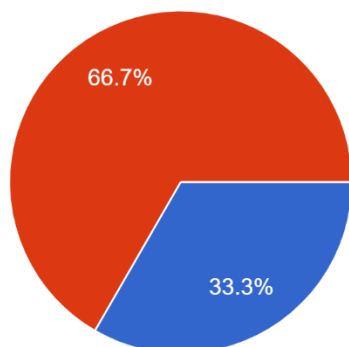


15(保健体育)体育や「一校一実践」を通してたくましい体づくりを推進している。

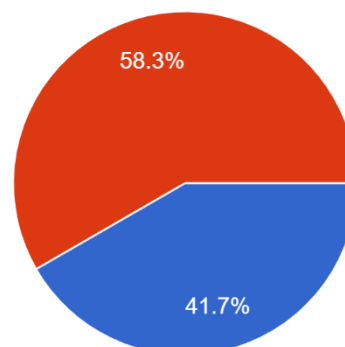


【危機管理】

16(危機管理)危機管理については学校だけでなく、保護者・地域・関係機関と連携して対応している。

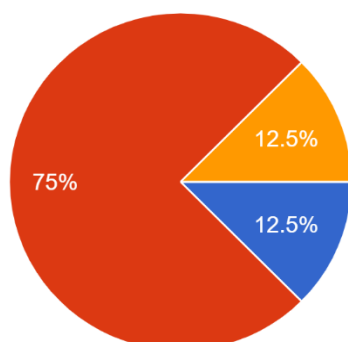


17(危機管理)「自分の身は自分で守る」という意識を定着させ、防災教育、交通安全・不審者対応の安全指導を徹底している。

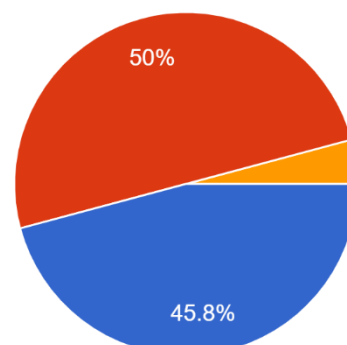


【連携・情報発信】

18(連携)保護者や地域と連携した教育活動を推進している。



19(連携)必要な情報発信をするとともに、地域や保護者からの連絡や相談に適切に対応している。



【学校教育目標について】

年度初めに示された学校教育目標，スクールプランを具現化するために教職員が一丸となって取り組んでいくことが不可欠である。教職員が共通理解をするために，学年間で連携を密にして情報共有し，共通理解をしていくとともに，業務改善をすすめ，子どもと向き合う時間を確保していきたい。

【学習指導について】

- ・今年度「甲府の子ども教育推進校(確かな学力向上推進校)の指定を受け2年目になる。『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり』をテーマに校内研究を行ってきた。子どもたちが興味をもって取り組める授業を目指し，学力向上に向けて学び合いながら，日々の授業実践を積み重ねてきた。令和3年度「全国学力・学習状況調査」では，本校は算数・国語ともに全国平均を上回る結果を示し，無回答率も低かったことから，6年間の学力の定着を実感することができた。
- ・地域の人的・物的資源の活用という点において，この2年間新型コロナウイルス感染拡大防止のため厳しい状況にあった。今後，コロナの状況を見ながら，必要なものについては戻していきたい。
- ・情報教育のICT機器の活用については，授業での活用は定着してきている。クロームブックは，さらに活用事例を増やし，効果的に取り入れていく。来年度はさらに家庭での活用も進んでいくと思うので，学校と家庭での効果的な活用方法も考えていきたい。また，情報モラル教育についても，ご家庭にも協力していただきながら，子どもたちがICTを安全に使いこなせるようにしていきたい。

【生活指導について】

- ・友だちアンケートや担任の気付きなどにより，友だち同士のトラブル等は，大きな問題に発展することなく子どもたちが安定した学校生活を送れていた。今後も早期発見，迅速な対応を心がけ，一人一人に寄り添った対応を心がけたい。
- ・あいさつについては，児童は「できている」「おおむねできている」の割合が高いが，保護者の方からの意見等から，校外に対するあいさつ(旗振りをしてくださっている保護者や地域の方等)に課題がある。また，コロナの影響も考えられるが，子どもたちのあいさつが元気がない傾向にある。今年度は，学級や町別集会などを通して指導を行った。今後もあいさつが気持ちよくできる児童の育成に努めていきたい。

【特別支援教育】

- ・定期的に特別支援校内委員会を開き，特別な支援が必要な児童について細かく情報交換を行ってきた。さらに校内委員会を効果的に活用したり，ケース会議を開いたりすることにより，児童の実態に添った適切な支援を行うように努めたい。

【保健衛生・体育】

- ・ウィズコロナの新しい生活様式にも慣れ、職員も子どもたちも感染症予防に努めている。今後の方向性は見えないが、来年度も同様な状況が続く場合には、最新のエビデンスに基づき継続した取組を行っていく。
- ・今後も緊急な対応が必要な場合には、メール等の情報伝達手段を使い、保護者に迅速に情報提供を行うように努める。また、教職員も一丸となって対応し、児童の安全を第一に考える。
- ・コロナの感染状況が収まっている時には業前体育なども少しずつ行えた。継続した縄跳びの活動や休み時間に外遊びを促すことで体力づくりをさせていきたい。

【危機管理】

- ・防災・防犯等万が一の時に備え、計画的な安全教育を実施し、危険予測能力、危機回避能力、自助共助の精神を養う。
- ・避難訓練等をくり返し行う中で、危機管理マニュアルを更新し、PDCA サイクルをつくることにより、リスクマネジメントを充実させる。

【連携・情報発信】

- ・コロナ禍で保護者に学校に入っていただけの機会が少なくなっている中で、感染状況を見ながら学校行事や授業参観などをできる限り実施してきた。通常の形でできることが望ましいが、感染状況によっては今年度同様、方法を変更しながら実施していく。
- ・保護者と対面ができない中でも、担任は連絡帳のやり取りや電話連絡など保護者との連携を大切にしてきた。また、HP や学校だより等で保護者や地域の方に情報発信を行い、学校生活の様子や子どもたちの活動について知らせるように努めてきた。今後とも、なんらかの形で学校の様子を知っていただける工夫をしていきたい。
- ・感染状況により、今年度も地域の方に入っていただく機会を設定することは難しかったが、「地域連携あいさつ運動」や「見守り隊の活動」などのご支援をいただく中で、子どもたちが地域に守られていることを実感した。コロナの状況を踏まえ、地域と学校と情報共有を行いながら今後も連携を深めていく。
- ・「読み聞かせボランティア」の活動を継続して行っていただき、低学年の子どもたちにとっても有意義な時間であった。教師以外の方に関わっていただく機会を増やしていきたい。

【その他】

- ・今年度もコロナ禍が継続する中で、多くの学校行事や修学旅行・林間学校・校外学習等は実施できた。また、分散登校・分割授業等を実施しなければならない厳しい時期があったが、児童・保護者の理解や協力のおかげで、教育活動が行えていることに感謝したい。
- ・教職員も通常業務に加えコロナ関連の業務が加わり、多忙化に拍車がかかっている。行事の精選、業務のスリム化などを考えていかなければならない。子どもたちにとっての教育効果も考えながら、効率的な業務改善に努めていきたい。教職員が児童と向き合う時間が確保でき、充実したものとなるようにしていきたいと考えている。